

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 6 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく  
お願いします。

記

1 情報の内容

タマネギべと病の防除の徹底について

2 発生状況

2 月中旬に広域調査を実施した結果、発生圃場率は 14.1%（表 1）で、東予地域中  
心に平年に比べて高くなっている。

2 月 22 日発表の気象予報では、気温、降水量ともにほぼ平年並とされており、現在  
の発生傾向が続くものとみられる。

3 防除上の注意

- (1) 越年罹病株（一次伝染株）は、やや萎縮し葉身が湾曲する症状を示す（写真 1）。湿  
潤な気象条件下（気温 15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生子が形  
成され、周辺に飛散し二次伝染を起こす。
- (2) 圃場観察を丁寧に行い、早期発見に努め、越年罹病株は直ちに抜き取り、圃場外に持  
ち出し適切に処分する。
- (3) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (4) 発病後の薬剤散布は防除効果が劣るので予防に重点を置き、計画的に防除を実施す  
る。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪いため、展着剤を必ず加用し散布す  
る。
- (5) 防除は降雨等の天候を考慮しながら 7～10 日間隔で行う。また、同一系統の薬剤の連  
用を避ける。
- (6) 農薬の散布にあたっては農薬安全使用基準を順守し、周辺農作物への飛散防止対策を  
徹底する。

表 1 広域調査におけるべと病の発生調査結果

調査年 (暦年)	作型	調査 圃場数	発生 圃場数	発生圃 場率(%)	程度別圃場数				発生程度	平均発病 株率(%)
					甚	多	中	少		
2020	普通	62	6	9.7	0	0	0	6	1.38	0.35
2021	普通	94	2	2.1	0	0	1	1	0.61	0.45
2022	普通	60	2	3.3	0	0	0	2	0.48	0.05
2023	普通	94	1	1.1	0	0	0	1	0.15	0.01
2024	普通	92	13	14.1	0	0	0	13	2.02	0.19
<b>平年(4年間)</b>				<b>4.1</b>					<b>0.65</b>	<b>0.21</b>

程度別面積：甚(発病株率71%以上)、多(同41～70%)、中(同21～40%)、少(同1～20%)  
病害虫発生予察要綱に基づき設定。

発生程度：
$$\frac{(\text{甚の圃場数} \times 7 + \text{多の圃場数} \times 5 + \text{中の圃場数} \times 3 + \text{少の圃場数})}{(\text{調査圃場数} \times 7)} \times 100$$



写真1 越年罹病株（一次伝染株）の状況